

平成26年度高洲地区区民対話会 議事要旨

1 日時 平成27年3月7日(土) 10:00～11:45

2 場所 高洲コミュニティセンター3階 ホール1

3 参加者 区民 25名、区職員 5名

(参加区民の所属団体)

第29地区町内自治会連絡協議会、社会福祉協議会高洲・高浜地区部会、
第604地区民生委員・児童委員協議会、第609地区民生委員・児童委員協議会、
高洲第一中学校区青少年育成委員会、高洲第二中学校区青少年育成委員会、
高洲小学校保護者会、高洲第三小学校保護者会、高洲第四小学校保護者会、
真砂第五小学校保護者会、高洲第一中学校保護者会

4 テーマ 地域の将来像と担い手

5 議事内容

(1) 開会及び参加者自己紹介

(2) 区長講話

配布資料により、地域コミュニティ及び高洲地区の現状について説明。

(3) 意見交換

主な意見は以下のとおり。

■地域の担い手確保、住民の地域参加について

- ・ 役員は大変だというイメージが浸透していて、進んで引き受けることを「でしゃばり」とマイナスイメージを持つ方もいる。役員が何をやっているかを知ってもらい、そういうイメージを払しょくすることが大事ではないか。
- ・ 地域の行事や地域活動に関する情報をどう行き届かせるかが大事。例えば、各戸を訪問し情報を共有することを制度化するのはどうか。アナログなやり方だが、直接会うことで地域のつながりができるし、高齢者等の見守りにもなる。
- ・ 地域活動への参加を呼び込むには、参加できる場所、機会、情報が必要だ。特に情報が欠けていると感じる。

- ・ 社協地区部会では、年に 2 回、子供フェスタというイベントを開催している。子供と一緒に参加し、「これぐらいなら」という気持ちで活動を手伝っていただけるとありがたい。
- ・ ふれあい食事サービスのボランティアは高齢化している。若い人が入ってこないため若返りができない。
- ・ 民生委員の仕事は大変というイメージが広まっているが、今は介護保険制度や民間のヘルパー制度があるし、配布物も減ってきた。世間で思われているほど大変ではない。
- ・ 民生委員の平均年齢は 72 歳前後と高い。来年の民生委員推薦会に向け人選に苦慮している。活動を通じていろいろなことを学べるので、興味のある方はぜひ民生委員になっていただきたい。
- ・ 子供のクラスが大変な状況になり、なんとか良くしていこうと保護者会の役員を引き受けた。役員になって初めて、保護司会や民生委員など、地域の方がいろいろなことをしてくれていることを知ることができた。このことを、子育て中の方やこれから高齢者になる方に広く知ってほしい。
- ・ 地域活動の案内を数百件配布しても、参加するのは 20 人前後であり、いつも参加者の顔ぶれは決まっている。参加しない方がどういう状況なのかが心配。
- ・ 自治会は近年退会や未加入が増えている。班によっては会員減により役員が回る頻度が増え、さらなる退会につながることもある。役員をやらなくていいなら会員になるという人も多い。
- ・ 保護者会として役員免除の申請を受け、免除を認めるかを判断しているが、学校から生徒の情報（不登校等）が入らないため、実情を踏まえた正しい判断ができず苦慮している。
- ・ 自治会では、災害時に支援が必要な方にはその旨登録してもらい、災害時に見回ることになっている。自治会に入ってもらえないと、支援が必要な方の情報が自治会に入らないため、支援ができない。
- ・ 地域で「この方は認知症なので、地域で支えましょう」といった情報を共有しても問題はないか。
→（他参加者）地域がみんな知っているから見守れるという面もある。ご本人やご家族の了承があれば、地域で情報を共有して良いのではないかと。

■高齢者、認知症の増加について

- ・ 一人暮らしの高齢者が多く、認知症が一番の問題。
- ・ 民生委員だけでは高齢者全てを見守ることは難しいため地域の協力が必要だが、UR 賃貸では自治会がなく、地域のつながりが薄い。このような状況で認知症にどう対応すべきか悩んでいる。

- ・ 市の制度を利用して緊急通報装置を導入しても、認知症の方は操作もおぼつかない。
- ・ 元気な高齢者も多いが、高齢のため雇ってくれる場がなく、将来の生計の見通しが立たない方が増えている。あと数年で職をなくす方は不安な気持ちで過ごしており、これらの方のケアは課題だ。
- ・ 社協地区部会では、いきいきサロンやふれあい食事サービスを行っており、参加者には楽しみにしてもらっている。一方で、参加者はだいたい同じ顔ぶれで、本当にこれらのサービスが必要な方はなかなか参加してくれないという実情もある。
- ・ 地域とつながらない高齢者について、どう地域に引き込んでいくか、見守っていくかが今後の課題。既にできたつながりの中に途中から参加するのは難しいが、この障壁をどう乗り越えるか。新しい参加者を引き込む方策や心構えを学びたい。
- ・ 高齢者の孤独死、特に男性の高齢者は外に出ない傾向にあるため、不安に感じている。話をしようとしても、関わらないでほしいという態度をとられる。高齢者の数が増えている中で、対応のしようがなく困っている。
- ・ 小中学生を対象にした認知症サポーター養成講座は良い。認知症は予防も治療も可能だ。認知症について知っていれば、早期の発見や適切な対応につながる。また、子供が学んだ内容は、その家族にも広がり、地域全体での関心向上につながる。

■その他

- ・ 市が開設しているこどもカフェ高洲は、毎週日曜日に高洲保健センター跡施設で開催している。参加者は増えてきており、20人くらいの子供が参加するが、だいたい同じ顔ぶれ。
- ・ 外国人の視点から問題と感じているのは、日本では求人の際に必要な資格が全て示されないことだ。応募しても「日本語〇級がないとだめ」とその場で言われることがあり、外国人は就職しづらい。

(4) 閉会